

涼感味わい、そつめん流し

心癒やし、いい思い出を 福島から2家族招く

東日本大震災で被災した自閉症児とその家族に保養してもらおうと、福島の子どもたちとつながる宇部市の会（橋本嘉美代表）が、2組の家族を宇部市に招待した。家族は2日から9日まで、山陽小野田市のこぐま保育園（山園舎）を拠点に、同会のメンバーやボランティアの学生らと安らぎのひとときを過ごしている。

つながる 宇部の会

親子は2日に宇部市へ到着。3日は、同園の庭でそつめん流しの昼食会が開かれ、みんなで涼を感じながらそつめんに箸を伸ばした。子供たちは、竹の樋（こ）を流れるそつめんを器用にキャッチ。

薬味を入れたつゆに浸しておなかいっぱい食べた。終始笑顔だった伊藤真由美さん（46）は福島県本宮市。夫の政次さん（56）と3人の子供たちを伴い山口を訪れた。現在は母子で新潟県に仮住まいしており、政次さんは仕事の都合で本宮市に残っている。真由美さ



そつめん流しを楽しむ家族（こぐま保育園で）

んは「夫と会えるのは月に1度ほど。家族旅行は本当に久しぶり」とほほ笑んだ。

東日本大震災後に設立された同会は、福島の自閉症児と家族を対象にした保養・移住支援を行って5年目となる。橋本代表は「心を癒やして、いい思い出をつくらせてあげたい」と語った。（自男川）